

OTANIing

大谷の「今」を伝える。「未来」へ繋げる!

2021.3

vol.225

卒業特別号

校旗



今を考える

学校長 飯山 等

神戸に住む長女が、生後5ヵ月になる第2子の灯くんともすの「初・寝返り」の動画を送ってきてくれました。4分に及ぶ長編です。

下半身をひねり、頭を持ち上げて…がんばります。でも、なかなかできません。3度4度とチャレンジは続きます。わたしのスマホをもつ手にも力が入ります。お母さんがヨイショーヨイショーと応援しています。5度6度、…。頭をもう少し…、下になった手が…抜けません。残念、もとのあお向けに。息が弾んでいます。お母さんはツカレタネ、モウイヨとやさしく声をかけています。でも、灯くんはチャレンジを続けます。8度9度…、10度! ついに成功。ヤッターヤッター。お兄ちゃんあらたの新くんも、「魚一さんでお魚を買ってきてお祝いだね!」と大喜びです。

私は動画を見ながら、なぜ、寝返りをするんだろうという思いがわき、今どきのらしくネットで「赤ちゃんの寝返りとは」と検索しました。すると、「首がすわり、上半身がしっかりしてくると、赤ちゃん自身が「寝返りしたい」という気持ちになります」とありました。私の頭のなかには??が点滅です。床に入った私が、もう少し書見しようと寝返りを打つ。それは、寝返りの後の景色を予測できているからです。5ヶ月の灯くんにもその予測があるのでしょうか。そうとは思えません。また、もし、お母さんが厳しい声と動作でヤメナサイ、ソナコトハシナクテイと制止したらどうするでしょう。それでも、灯くんはチャレンジし続けるのでしょうか。我ながら、くだらないことを考えるなあと半ばあきれつつ、気になるのです。そして、考えました。

私たちの生きようとする意欲は、どのようにそのいのちにそなわっているのでしょうか。灯くんが寝返りしようとするのは、灯くんという私が思い、決断し、なす、私の行為なののでしょうか。わたしには、そうではなくて、私を新しく生み育てる、私を創造する行為なのだと思うのです。どうして、そのことを意欲するのか。それは、生きようとする意欲に先立つ、生かされている世界からのうながしとしてあるのではないかと。生かされているという、自らのいの

ちへのうなずきは、生きようとする意欲に先立って存在しており、そのいのちのうなずきから、生きようとする意欲はうまれてくるのであって、けっしてその逆ではないのではないかと。

私たちすべての人に、確かにあった《その時》。しかし、私たちに「初・寝返り」の記憶はありません。その時は未だ私がない、〈私〉以前のことからです。蓮如上人が尊ばれた『安心決定鈔』という書物のなかに、「しらざるときいのちも、阿弥陀の御いのちなりけれども、いとけなきときはしらず、すこしこざかしく自力になりて、わがいのちとおもいたらんおり、善知識、もとの阿弥陀のいのちへ帰せよとおしうるをききて、帰命無量寿覚しつれば、わがいのちすなわち無量寿なり」という言葉があります。とすれば、まさに、「わがいのちと思う」以前のこととしての、「もとの阿弥陀のいのち」、すなわち、「無量寿のいのち」のふるまいなのでしょう。「わがいのちすなわち無量寿なり」のすがたが、この「初・寝返り」なのだと思えるのです。何度も何度も寝返りにチャレンジするすがたに、私の生きようとする意欲を超えて、私を受容し、眼差しを注ぎ続けて、新しい未来へと養育する世界がある。その世界の意欲に生かされているいのちであることを、わたしに教えてくれているように思えたのです。

ひとは、生かされているという、人が人としてこの世にあることの深い感動によってこそ、私という人間を、粗末にしないで生きることができるのではないのでしょうか。そして、生かされているという《こと》のうなずきは、長い思索の果てに導き出される我が身に遠い観念としてではなく、我が身の内に、ピュアでシンプルな事実として、しかし、その《こと》は、感覚されるのではなくて、考えるということをとおして、はじめて我が身にいただかれ、うなずかれることなのでしょう。今を成り立たせている〈時〉の重なりを想い、《今》をふりかえって考える。そこに、《いま》へのrespect(=尊敬)が、《わたし》をたいせつに生きることが、《われら》を尊ぶことが、いのちの根本感情として生まれるのでしょうか。

大谷を卒業するきみ。新しい姿勢で世界を観て、感じ、考える。その入り口に立っている、たいせつなあなたです。